

シチョウソンボウサイシステム 市町村防災システム

守れる命がそこにある ～住民の安心・安全を支えるしくみをご紹介～

近年、東日本大震災や台風など大規模な災害が相次いで発生、また、局所的豪雨が頻発するなどし、人的・物的被害が多数発生しております。災害発生時に住民が早期避難などの防災行動を行うためには自治体における迅速かつ的確な情報収集、意思決定および住民への情報伝達が不可欠であり、その重要性は高まる一方です。

防災担当者様は、次のようなお悩みをお持ちではないですか？

<p>➢ 現地情報が不足している</p>  <p>[具体例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害対策本部と離れた場所で発生している、局所的な豪雨の状況を把握しきれず対応が遅れてしまった 	<p>➢ 避難勧告等判断のための情報が活用できていない</p>  <p>[具体例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災の現場で気象庁から配信される膨大な量の防災情報を活用できる人材が不足している ● 実況に基づいた状況把握に頼りがちであり、気象予報が十分に活用できていない 	<p>➢ 情報が届きにくい地域がある ➢ 操作が大変で時間がかかる</p>  <p>[具体例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 激しい雨音と雷で、防災行政無線システムの屋外スピーカからの避難の呼びかけが住民に届かなかった ● 防災行政無線以外にも情報伝達手段はあるものの、それぞれ個別の操作のため、情報伝達までに時間を要する
--	---	--


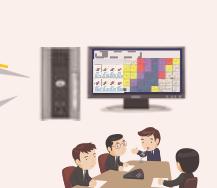

現地情報の充実が課題

迅速に意思決定する為の
予測情報の活用が課題

情報伝達手段の多様化と
運用の簡略化が課題



市町村防災システムは上記の課題を次の3つの機能により解決します！




<p>情報収集機能</p> <p>観測・予測データを活用</p> 	<p>予測機能</p> <p>災害発生時の危険度を把握</p> 	<p>情報伝達機能</p> <p>情報の一斉送信</p>  <p>自動一斉配信</p> <p>防災無線 携帯電話 その他メディア</p>
---	--	---

市町村防災システム製品概要

市町村防災システムは、`情報収集機能、`情報伝達機能、`予測機能、の3つの機能により構成されています。







情報収集機能 ～広域情報とスポット情報で網羅性を確保します～

情報提供サービスを活用し、地域全体の状況を広域情報で捉え、広く状況把握することができます。

 既存サービスの有効活用	気象予測会社などが提供している観測データや予測データを活用することで、低コストで地域全体の情報を面で取得することができます。
 既存の観測設備の有効活用	既に設置されている様々な観測設備の情報を集約するしくみを整備することで、広域情報とスポット情報の一元化を可能にします。
 新規の観測設備の設置	災害危険度の高い地点等、より正確な情報収集が必要な箇所に対して、観測設備を新たに設置し、繋げることができます。




予測機能 ～予測情報により迅速な意思決定を支援します～

予測情報を有効活用することで迅速かつ確かな意思決定を行うことができます。

 ゲリラ豪雨への迅速な対応	1時間先の降水強度を5分毎に表示し、局所的な降水情報を把握します。冠水ゲートの制御や通行止め、避難発令等の判断材料にできます。
 局所的危険度の可視化	1kmメッシュ毎に1時間降水量・24時間積算降水量の閾値を設定し、超過した場合に警告表示するので、危険度が可視化されます。
 任意の地点の観測と予測	1kmメッシュで降水量情報を取り出せるので、雨量計が設置されていない任意の地点でも、降水量や降水予測の把握が可能となります。
 的確な意思決定を支援	基準値を100%超過、120%超過等各設定値を設けてアラート表示でき、気象警報・注意報だけではわかりにくい情報が一目でわかります。
 「土地(地域)ならではの」を考慮	1kmメッシュ毎に設定値を変更でき、過去の土砂災害発生場所、土砂災害警戒区域等において、その土地に応じた設定が可能です。
 タイムライン支援	土砂災害の危険度を6時間先まで可視化することができるため、先を見越した早めの対応を行うことができます。

情報伝達機能 ～簡単な操作で住民へ確実に情報伝達ができます～

「防災情報自動配信機能」を導入することで多様なメディアに対して、情報の一斉送信を行います。

 住民への確実な情報伝達	防災行政無線、エリアメール、HP、SNS等多様なメディアに配信することで、住民へ迅速かつ確実に情報を伝達するしくみを実現します。
 迅速な情報配信・シンプルな操作	1回の操作で多様なメディアへ同時配信ができるため、迅速な情報配信が実現できます。また配信文言をテンプレートとして登録できます。
 平常時の活用	平常時にも、住民へのお知らせや防災に関する各種情報（災害時の避難所や情報提供方法など）の通常広報として活用頂くことができます。

災害時の情報収集から情報伝達まで、課題解決のしくみを総合的に構築できます。